半田市中心市街地活性化情報誌＜ハンズオン＞

HANDAS ON!

2025 SPRING / TAKE FREE

発行／半田市　　企画・編集／コココリン（半田市創造・連携・実践センター）

半田市の「中心市街地」ってどのあたり?
過去から未来へ想いをつむぐ、「活性化」の今

行ってみようよ!
中心市街地のNEWスポット「コココリン」

まちと奏でる、わたしの物語
岸田　裕一さん
榊原　舞子さん
服部　俊秀さん

受け継いでいくまち
新しくなるまち
人が集うまち

過去から未来へ想いをつむぐ、中心市街地「活性化」の今

江戸時代から知多半島の中心地として、ヒト、モノ、情報、経済、そして文化が集まってきた半田市の中心市街地。
地域の持つ文脈を大切にしながらも、時代に即した魅力的で、子どもたちに受け継ぎたくなる民と公のまちづくりが始まっています。

つむいできた半田の歴史。宝物と思い出が残るまち

かつてこのエリアは、大変な賑わいがあったといいます。知多半田駅からJR半田駅の間はアーケードが続き、お店がぎっしりと並んでいました。家族でちょっとおめかしをしてユニーへ。屋上には遊園地。遊んだ思い出がある人もいるのでは。個性あるお店も多く、大人たちが生き生きと働いていました。

JR半田駅の西側には、繁華街。半田の三扇楼の一つ、料亭末廣（春扇楼）では芸者がお座敷に上がり、三味線の音が響くなか、大人たちが夜を楽しみました。各地区で勇壮な山車が曳き廻される春の祭礼では、掛け声とともにお囃子の音が桜の季節を華やかに祝いました。

半田運河周辺には、伝統的な建物が今も多数残っています。

江戸時代、半田でつくった酒粕が半田運河から江戸に船で運ばれ、握りずしのブームに火を付けたといわれており、いわば「寿司の母港」。そんな江戸時代からの繁栄を伝えるかのように、小栗家住宅や旧中埜半六邸をはじめとする豪商の邸宅、建ち並ぶ黒板囲いの國盛の蔵、小説家小栗風葉の住宅などに出会います。

新美南吉の作品「手袋を買いに」のモチーフとなった帽子店もあったといわれるほど、半田市の中心市街地には大切な文脈と営みが受け継がれているのです。

半田運河

蔵のまち公園

この先も暮らしたいまちへ。小さな芽が出始めました

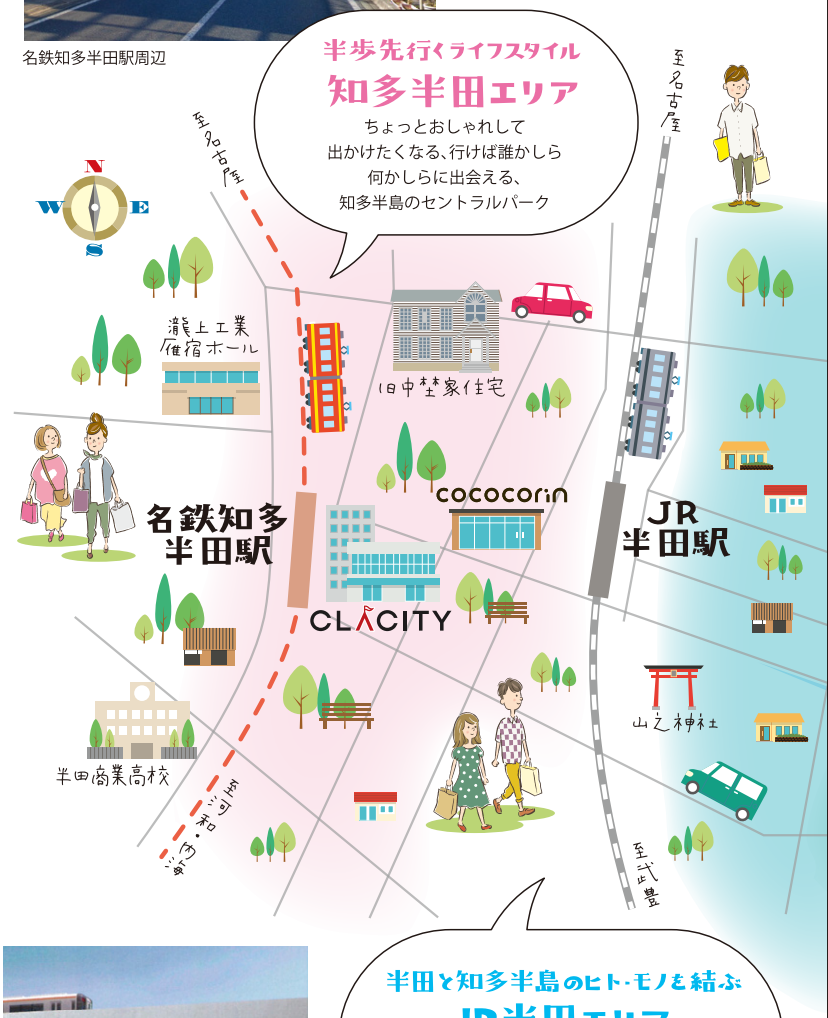
大人も子どももたくさんの思い出を作り、半田のまちを盛り上げてきたこのエリアも昨今、人口減少の波にさらされています。世代交代とともに増える空き地や駐車場、このまま放っておけば、人は減り、大人たちの元気も無くなり、子どもが未来に夢をもてなくなる…？そんな絵が見えてきます。市民全員が「誰かが何とかしてくれる」と思っていては何も始まりません。けれどもさすが、賑わいをつくってきたパワーのあるまち。「誰か」ではなく「自分たちが」と小さな芽が少しずつ出始めました。

定期的な朝市や小さなパン屋さん、コーヒースタンドを始めた事業者。緑を増やす活動を始めたグループやココリン（中心市街地活性化の拠点であり産業人材育成を目的とした施設）の運営に協力するチーム。運河エリアでのタウンミーティングや、銀座本町通りでリノベーションをしておしゃれなアトリエを開設した作家さんなど。並行して知多半田駅東ロータリー改修、JR武豊線高架化と周辺整備など、ダイナミックな動きも進んでいます。

まちの未来図をまちに関わりたい人々で描くことから始めた中心市街地活性化の取組は、まだ2年ほど経過したところ。まちなかには、あなたが関われるもの、始められることがきっとあるはずです。さぁ、ここからの物語、一緒に描いていきましょう！

名鉄知多半田駅周辺

名鉄知多半田駅東ロータリーの
リニューアルイメージ



高架化工事完了後のイメージ

高架化工事中のJR半田駅前

コココリンで やる気 のガソリンを入れて、まちへ繰り出そう！

2024年11月OPEN！ 中心市街地活性化拠点

名鉄知多半田駅とJR半田駅を結ぶ泉線という道路沿いは、半田市の中でも1日の通行量が多い場所です。ここに昨年 11月、コココリン（半田市創造・連携・実践センター）がオープンしました。

ある日、ただポンッとできたのではありません。2023年の秋から1年かけ「どんな場にしたいか」の市民ワークショップや学びのセミナーを多数開催。「自分たちのまちに創るもの」を市民が市と一緒に考え、その想いが反映された場がコココリンです。

多くの市民が参加した、まちづくりワークショップ

自分らしい使い方で一歩先へ！のひとときを

コココリンには、1時間400円で利用できる「コワーキングスペース」、起業初期の人達を応援する「レンタルオフィス」などがあり、併設のカフェや芝生スペースは交流の場になっています。カフェ内には作品の委託販売を行うスペース「THE LOCAL」もあります。

コココリンは、皆さんに使っていただく「場」ですが、ただの静かなスペースに収まってはいません。いや、いられません（やる気！）。例えばコワーキングスペースの利用終了となる午後7時。そこから約2時間は、コココリンらしく皆さんを応援する時間です。コココリン主催でセミナーや交流イベントを行ったり、皆さんに使ってもらったりと、さまざまなワクワクやつながりが生まれています。

コココリンの役割のひとつに「中心市街地をにぎやかにするような事業者を生み出していく」ことがあります。自分らしく事業を始めたい、育てていきたい、という人のための機会もたくさん用意。ぜひうまく使ってコココリンでやる気のガソリンをたっぷり入れ、あなたの一歩を進めてくださいね。

コワーキングスペース

「働き方は生き方だ」をテーマに毎月第4金曜日開催の「THINK　WORK」

私たちがお待ちしています！

おもてなしスタッフ
廣瀬　恵

コココリンに来てくださる皆さんが、まず通る場所。それが受付です。初めての方も常連さんも、安心して来ていただけるよう、笑顔でお迎えします。皆さんが心地よく過ごし、新しい一歩をサポートできるよう心がけています。気軽にいらしてくださいね。

クリエイティブディレクター
池脇　啓太

以前は観光協会で働き、半田の中で「輝くもの」を見つけるのが仕事でした。コココリンで多くの人と出会い、今は「まちにいる"人"こそが輝くものなんだな」と実感しています。原石がどんどん輝いていくための仕掛けをたくさん用意して、皆さんをお待ちしています。

レンタルオフィス入居者にお話を聞いてみました！

家族の幸せと自分の夢、一緒に叶える場

Q：どんなお仕事？

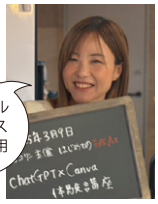
キャリアコンサルタント講師です。

Q：入居の理由は？

これまでは、オンラインを中心に、キャリアコンサルタントの国家試験講師や、大学生の就活支援をしてきました。「こんな近くに創業期を応援してくれる場がある！」と、すぐに入居を決めました。

Q：入居してみてどうですか？

地域の方とのつながりがぐんぐん広がっています。子育て世代が楽しめるイベントもあり、家族みんなで楽しめるのも良いですね。人材育成を通じて半田市コココリンから自己実現を叶える人材を増やしていきます！



レンタルオフィス C棟利用

miru-Lab
内藤　美貴さん

夢のショップをコココリンでオープン！

Q：どんなお仕事？

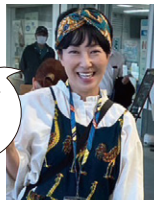
アフリカ雑貨店です。

Q：入居の理由は？

これまで3年ほどマルシェで出店してきましたが、いつか自分のお店を持ちたいなと思っていました。コココリンなら、起業する人や地域の多彩な人とつながれると感じ、自分もそこで頑張ってみたいと思いました。

Q：入居してみてどうですか？

4月20日にオープンしたばかりで、どんな方が来てくださるかワクワクと不安とが混ざっています。「アフリかわいい」が、コココリンを通して多くの方に届くよう、頑張っていきます！



レンタルオフィス A棟利用

NIPETANO（ニペタノ）
岡田　優花さん

まちと奏でる、わたしの物語 ～半田市中心市街地のステキビト紹介～

自然発生的に生まれたコトコトラボ 自由でフラット、誰でも参加できます！

半田ランブリングタウン協同組合 理事長
自然食品の専門店 ビオショップ半田 オーナー
半田市市民活動団体 コトコトラボ 代表
岸田 裕一（きしだ ゆういち）

半田市創造・連携・実践センター「コココリン」の着想が市から発表されてからすぐ、数多くの市民有志が集まってさまざまなワークショップが開催されました。そこで生まれた自由に意見を言い合える雰囲気、フラットな人間関係、実際に催された実験的なイベントなどを行なう中で生まれたのが市民活動団体「コトコトラボ」です。グループは誰でも参加が可。誰かが〝やりたい〟と手を挙げたことに、魅力的と感じた人が一緒に活動する自由でフラットなシステムです。現在、代表を務める岸田さん曰く「街づくりや賑わいの創出は私たちにとっては一生終わらない宿題です。何が出来るかはその都度考えていけば良いと思います。いろんな人がさまざまなアイデアを出すことでヒトやモノ、コトが繋がっていく。これって学生時代の文化祭みたいで本当に楽しいんです！」とのこと。今、進行中なのが中心市街地に緑のある癒しの空間を増やしていく「小さな森プロジェクト」、朝の通勤時間帯に店舗の軒先でパンを販売する「ここパン」、小学生や未就学児がみずから企画して、商店街のお店に取材をしこども新聞を作っている「こどもラボ」、野菜や総菜の販売・キッチンカーなどの出店もある「おおまた朝市」など。アイデアがさっと形になり、手作りの活動が次々と生まれています。『「コココリン」という象徴的な建物が出来た事でやるべき事・やりたい事が明確となり市民の結束力は高まったように思います。こんなイベントをやりたいなどありましたら、コトコトラボのInstagramにメッセージ下さい』と岸田さん。まちの中の文化祭はまだ、始まったばかりです。

知多半田エリア

ビオショップ半田
半田市北末広町113-2
0569-23-3659
月～金―9:30～19:00
土―――9:30～18:00
日曜休、駐車場有り

半田市民活動団体 コトコトラボ
@kotokotolabo_handa

中心市街地のニュースやイベントはこちらをチェック！

知多半田エリア

知多半田駅前から コーヒーの趣深い世界を発信中

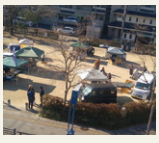
pivot coffee stand（ピボット コーヒー スタンド）
半田市南末広町120-4（コココリン内）
10:00～17:00　火曜休　P コココリン共同駐車場有り

世界40カ国以上を旅してきた店主がもっと半田を盛り上げたいという強い思いとオーストラリアメルボルンの街に溶け込むコーヒー文化への憧れがきっかけとなりコココリン内に昨年11月にオープン。カフェや喫茶店とは違うコーヒーとの接し方、気軽な楽しみ方を味わえます。

知多半田エリア

毎月25日に開催！「おおまた朝市」

半田市南末広町27（おおまた公園）
主催：コトコトラボ
4/25・5/25・6/25…
8:00～11:00
※出店情報などはインスタより ご覧下さい。



知多半田駅前近くにある「おおまた公園」の実験的利用法の一つとして開催。テーマは「賑わいのある昭和の朝市」の復活。旬の野菜や果物、蒟蒻や干物、花やパンなど、買い物をしながら、お店の人との会話や近所の人との語らいが楽しめます。

明治時代に建てられた築113年の五軒長屋の一軒を若手アーティストも集う創造的空間にリノベーション

ギャラリー イリマル 代表
榊原 舞子（さかきばら まいこ）

ギャラリーイリマルのオーナー榊原さんの故郷は日本六古窯の一つ美濃焼のまち、多治見市。祖父母が陶器商を営んでいたこともあり、幼い頃から作家作品に囲まれて育ったそうです。そんな彼女が結婚を機に半田にやってきて最初に思ったのが「半田と多治見は空気感がよく似ている」ということ。何かクリエイトする力をまちから感じ取ったそうです。元来面白いことをやりたい榊原さんは自宅を作る際も「絶対、店を併設しよう」と考え、1階にギャラリーを設置。場所が半田商工会議所のすぐ前ということもあり、話題のスポットとなりました。次に手掛けたのが明治時代から続く古い店舗の再生。自宅から徒歩1分の場所に古民家の売物件を見つけた彼女はすぐに購入を決意。半田市商業施設助成事業費補助金を活用し、躯体の基本的な部分以外は全て家族や友人・仲間などとDIYで作り上げました。「レトロな街にレトロな建物が出来た！」とアンテナの高い人たちの間でも話題となり、今ではさまざまなクリエイターやアーティスト、若い学生が日替わりで利用する施設となっています。建物を買ってすぐは何て面倒なものを購入してしまったのだろうと後悔もした榊原さんでしたが「手を加えれば加えるほど、歴史や文化を肌で感じて、どんどんこの建物が好きになっています」とのこと。窓枠や照明、電気のスイッチなどに至るまで、明治の息吹を感じる事のできる貴重な空間での体験会や催物の数々。半田の作家文化の発信基地としてますます目が離せません。

JR半田エリア

ギャラリー イリマル
半田市銀座本町1-17
0569-58-5800
10:00〜15:00
https://gallery-irimaru.com

※イリマルとは祖父母の会社「イリマル商店」から由来しています
※ガラス体験教室やワークショップの開催、作家作品の展示販売、レンタルスペースの運営など、作家・職人・アーティストなどの繋がりの場としてもご利用下さい

JR半田エリア

古民家の文化を引き継ぐ「身体に優しいお店」

Bio Glück（ビオ グリュック）　半田市御幸町32
10:30〜17:00　日曜・月曜休　P 駐車場有

半田市商業施設助成事業費補助金を利用して古民家を北欧テイストの外観に改修。「とにかく身体に良いモノ」をテーマにドライフルーツやナッツ、スパイス、チョコレート、グミなどのオーガニック&ナチュラル食品を量り売で販売しています。目の前で挽いてくれる「ナッツバター」なども人気です。

JR半田エリア

高架化工事で変化していくJR武豊線半田駅付近の街並み

愛知県と半田市及びJR東海が協力して平成28年度よりJR武豊線の連続立体交差事業が着実に進んでいます。令和3年度より高架本体工事が始まり、令和12年度の事業完了を予定しています。新たに生まれ変わるJR半田駅前への期待は高まるばかりです。

地元半田の皆さんと「ともに」繋がりたい！その第一歩が運河酒場での「ぽん酢サワー」

株式会社Mizkan Partners
品質環境部　情報管理課
服部　俊秀（はっとり としひで）

「福岡のように屋台がずらりと並ぶ光景を半田運河の日常のひとつにできないだろうか…」そんな思いから始まったungaSakaba（運河酒場）。半田市観光協会発案のこの取組にミツカンの社員である服部さんは最初はお客さんとして来場していました。「会社のすぐ隣りだし、お酒は美味しそうだし、面白そうだし、なんか楽しそう」そんな風に思っていた彼は急にある事を思い立ちます。「自分もこのイベントに出店者として参加して、地元の皆様と触れ合いたい！」20年間、ミツカンの社員として半田市と関わってきた彼は、地元の人との接点がそれほど濃密でないことを個人的に憂慮していました。そしてミツカンという会社の垣根にとらわれず、いち個人として運河酒場への出店を決めたそうです（もちろん会社の承諾を受けています）。売り物は「ぽん酢サワー」。（この商品セレクトに彼の愛社精神を感じますが）ミツカンがぽん酢の新たな使い方として売り出しているサワー（お酒）で、柑橘果汁とお酢のすっきりとした味わいが心地良く、糖質も控えめで罪悪感の少ない飲み物です。運河酒場での売上も上々。何よりも服部さんが嬉しかったのは、地元の人との直接的な触れ合いでした。「ミツカンという会社は誰でも知っていると思いますが、私が半田の事をよく知っているかと言えば、そんなことはありません。もっと地元の皆さんと交流を深めていろんなことに挑戦していきたいです！」今後、定期的に開催される予定の運河酒場。「ぽん酢サワー」を売り込む服部さんの姿を探しに出かけてみては。

運河エリア

株式会社 Mizkan Partners
服部　俊秀さん

静岡県富士宮市出身
大学を卒業後、ミツカンに入社
半田運河での清掃活動「蔵のかけ橋ふきふき隊」の参加をきっかけに半田市観光協会と交流ができ、運河酒場での出店へと繋がっていきます

運河エリア

半田運河にゆっくり滞在できる「居場所」ができました

■ **運河床（うんがどこ）**
開催場所／半田運河
源兵衛橋～蔵のかけ橋の間
開催期間／2025年2月1日より
1年を目途に実施します。

市民や来訪者に「もっと半田運河で寛いでいただこう！」と発案された運河床。24mの細長い木製床には可動式のドリンクホルダーがあり、時間を気にせずに過ごす事ができます。半田運河の四季の移ろいや風の匂い、醸造や発酵文化の歴史的背景に思いを馳せてゆったりお過ごし下さい。

運河エリア

今宵は心地良い夜の半田運河で乾杯

運河酒場
開催場所／半田運河
源兵衛橋～中村街園周辺
開催日・内容については、Instagramで最新情報をご確認ください。

「半田運河で屋台を楽しみたい！」という市民の思いからスタートした実証実験「運河酒場」が4月～8月まで定期的に開催されます。夕焼けを見ながら…、夜の心地良い風を感じながら…など、思い思いのスタイルで酒場を楽しめます。音の演出も夜の半田運河を盛り上げます。

「HANDAS ON!」創刊によせて

「DIO」こそが未来に継ぐ「選ばれるまち」をつくる

人口減少時代、どうすれば「選ばれるまち」に？

2023年から本格的に進んできた半田市の中心市街地活性化の取組。行政と民間がともに果たせる役割を持ち寄り、連携して進めていく方法にこだわっています。1949年に日本国内で生まれていた赤ちゃんは約269万人。2024年には約69万人と、半田市の人口約20個分が減った時代です。将来に継いでいく半田市にするためには「選ばれるまち」にしていく必要があります。それは私はDIY＝Do It Yourself（あなた自身でやろう）ではなく"DIO＝Do It Ourse Ives"（私たちでやろう）のまちだと思っています。自分が住みたい、関わりたい、働きたいまちを描きつつ、小さく生んで育てていく。

「自分軸」で始め、仲間と創るDIOを

まちの未来図ワークショップでは、延べ500人以上の「活動したい」市内外の皆さんが、知多半田駅東ロータリーリニューアルワークショップでは約240人の参加者があっただけではなく、自主開催ワークショップも生まれました。子育て年代は30代の女性ネイリストさんが、ハンデを持たれるかたとその支援者を集めてくれたカフェ経営者さん。SNSで呼びかけてどのような動きがあるのか説明するおしゃべり会を開催してくれキッチンカー事業者さん。それによりさらに70人以上が検討に参加してくれました。そのほかにも、朝市や緑を広げる活用などまちを楽しむ民間主体の動きがたくさん生まれています。

ココココリンはオープン以来、月の来館者が平均1700人程度あり年間約2万人の来館・滞留効果を見込んでおり、すでに創業に結び付いた駆け出し事業者さんも誕生しています。（この話をほかのまちづくりにかかわる自治体でするとよく必ず「うらやましい」といわれるのが、実はひそかな自慢だったりします。）

誰かがやればいいなんてチャンスがもったいないし、「誰か」はやってこない！

自分軸で、自分のフィルターを通して「〇〇したくなるまち」を語り、共感してくれた仲間とDIOでつくる。行政や地域がその環境や余白づくりをあと押ししていく。それが当たり前になることこそが「選ばれるまち」への道なのだと思っています。

まだまだ物語は始まったばかり。ぜひ、ワクワクする物語を共に盛り上げる登場人物になってみませんか？

伊藤　大海
（いとう・おおみ）

半田市中心市街地活性化を担う、市長特任顧問。
2022年12月着任。
まちづくりコンサルタントとして20年以上の実績をもつ。

「HANDAS ON!」は、私たちが創っていきます！

鈴木　雅貴
一般社団法人
はんだのたね　代表理事

まちの価値向上を後押しできる紙面に

半田市の中心市街地でずっと商売をしてきました。まちの価値を上げ、子どもたちがここで活躍したいと思うようなまちにしたいと、はんだのたねに携わっています。本誌を手に取る人たちに、このまちの価値と未来への期待を届けたいです。

竹内　華奈子
ココココリン　センター長

半田市中心市街地のフレッシュな今を発信！

「つどう」「つながる」「うみだす」がキーワードのココココリン。来られる方とお話をしたり、企画を実施したりしながら、皆さんの「今」を肌で感じられる場所です。皆さんの想いをリアルに感じ取り、その挑戦を紙面からも応援していきます！

◎発行／半田市
◎企画・編集／ココココリン（半田市創造・連携・実践センター）
◎事務局／一般社団法人はんだのたね
営業時間：10時～19時　休館日：火曜日、年末年始
〒475-0853　半田市南末広町120番地の4（おおまた公園北側）名鉄知多半田駅より徒歩約3分・JR半田駅より徒歩約4分
◎お問い合わせ／半田市役所 市民経済部産業課 TEL.0569-84-0634　ココココリン TEL.0569-77-2363
はんだのたねは、指定管理者としてココココリンの運営管理を行う、エリアマネジメント会社です。